

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	文化・スポーツ振興課	
会議名 (審議会等名)	令和7年度 第1回文化振興審議会			
開催日時	令和7年7月9日(水) 10:00~12:00			
開催場所	塩田公民館 栄養相談室			
会議の公開の可否	☑ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人	
公開不可・一部不可 の場合はその理由				
出席者	委員	杉谷委員、古賀委員、秋吉委員、一ノ瀬委員、森委員、 松本委員、筒井委員、高島委員		
	事務局	文化・スポーツ振興課長、副課長、主事 各1名		
	その他	【受託業者】 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 トータルアドバイザー、まちづくりプランナー 各1名		
会議の議題	別紙のとおり			
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画策定の考え方について ・ スケジュール表 			
審議等の内容	別紙のとおり			

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	文化・スポーツ振興
議 題	嬉野市文化振興計画について		
内 容	第1期文化振興計画の振り返り 第2期文化振興計画内容について		
審議経過	事務局	「計画策定の考え方について」説明	
	委員	計画策定の考え方について、現行計画の考え方を継承するとあるが、第1期の計画の振り返りの中で、策定以降、計画に基づいた事業実施や進捗確認ができていないとあるのはどうか。	
	事務局	市が策定した後、その活用に対する意識が不足していたことが課題だと考えている。策定後の事業実施の際に、イベント実施の考え方など計画的に進められなかった。計画に基づいて事業を実施するという意識の部分で反省しなければならないと考えている。	
	委員	物事を動かすためには実施計画と進捗管理が必要になると思う。途中でチェックしながら、3年間などを見据えて重点目標などを掲げ、施策に反映して行動していくことが必要だ。業者が記載したものから、他自治体の事例を踏まえて活用していくことが必要だと考える。	
	委員	コミュニティの中でも会議をしていたが、名札を設けたり、近況を1分程度で共有することが必要だと思う。顔見知りになることで良くなることが多いと思う。	
	事務局	次回からそのような形で進めていきたい。	
	委員	民生委員9年目になるが、高齢者、防災計画など関連する調査を14通ほど提出してきた。第3次福祉計画ではPDCAを回すと書いてあるだけで、	

		<p>計画を作るだけのものになっていると思う。第2期計画の策定にあたっては、そもそも何のために計画を作るのかという原点を明確にする必要がある。必ず到達点を記載して進めていくことが必要だ。計画の振り返りは必ずやるべきだ。そうでないと、次の計画は立てられないと思う。伝統芸能の継承についても、いろんな意見があり、想定していない問題も浮上していると思う。そうしたことを検証する必要があると思う。</p>
	委員	<p>計画策定の理念について、これは一般的なものか、嬉野市の事情に合わせて変更される可能性はあるのか。</p>
	事務局	<p>一般的なものだ。現状ではこの形で進めながら、策定の中で修正が必要なら変更する。</p>
	委員	<p>「社会的・経済的付加価値を生み出す」とは、どこに関連付けて述べているのか。</p>
	事務局	<p>例えば、観光に紐づけることや、お茶の振興につなげることも必要と考える。</p>
	委員	<p>分野間で不均衡が生じるのではないかと懸念する。下宿の笛の奏者はいない。面浮立については41歳の自身が最年少となり、衰退していくものとなる。計画策定に絡めるのであれば、どこまでなくなっていくものを許容するのが難しいと思う。</p>
	委員	<p>文化は幅が広いものとなる。先ほどの理念についてもどこの自治体に出しても通用するものとなる。嬉野市として特に今後経済的な視点を含めて重要としたい部分について何か考えないといけない。団体の中でも頑張っている団体を紹介していかないといけない。鹿島市、諫早市における面浮立の取り上げ方についても見習わないといけない。前の計画の検証、他自治体の事例も踏まえて策定していかないといけないと実践的なものとならない。</p>
内容		<p>市民アンケートについて</p>
	委員	<p>アンケート案について問11について選択肢の並び方についてはバイアスがかかっているのではと考える。地域の祭り、行事などを前に順番をひっくり返す必要がある。文化の統括性については地域と中央文化について考えないといけない。文化については経済価値に結び付けることは難しい。文化は直接利益に結び付くことは難しく、取り組みながら自然発生的にコモディティにすればよいが、経済的価値を戦略的に追及していけば破</p>

審議経過		<p>綻すると思う。文化については予算がかかるものである。文化の創造がうまくいけば社会へのインパクト、人々の生きがいにつながると考える。</p>
	委員	<p>文化協会においてはメンバーの中で人口減少社会となっている。10年間の中で相当な人口減少が進んでいる。取り組みを広げすぎたら何も進まないのではないかと考える。取り組みを集中的に行うことも必要と思う。文化自体が高齢者のためのものにならないように、若い人たちが文化に触れて楽しんでいくことが必要と思う。点検をしながら具体的なことをしていないといけない。</p>
	事務局	<p>社会経済的価値というと経済的な価値だけに焦点が当たるように誤解されるが、心の健康や生きがいの向上といった社会的価値も含めている。芸術の本質的価値を認めながら、社会的価値を作り上げていくという観点で計画を作りたい。</p>
	事務局	<p>上位計画の総合計画でビジョンをもって文化の方針に従うまでである。嬉野市は合併後に6,000人減少している。社会的消費を担っている。コミュニティ、商店街も衰退している予測となる。そのような中で文化振興計画を立てる重大さを考えないといけない。</p>
	委員	<p>文化活動をいくつか絞って取り組みを進めていくことが必要である。実際にできることを考えていくことが必要である。人口減少社会において、全ての文化活動を広げすぎず、重点を置くべき分野とそうでない分野を明確にする必要がある</p>
	委員	<p>第1期の検証をやっていかないといけない。現実に即していくことが重要と考える。鉦浮立の伝承においてもなんとか3名できるようになってきた。高齢者が多い。高校生に教えても市外にでて帰ってこないため、40代をメインに教えていかないといけない。農業関係のお祭りだが、人口が減っていく上での伝統芸を守っていくことが必要となる。</p>
	委員	<p>計画を作ることについては総合計画の中に目標と現状と課題について検討しないとけない。10年後総合計画において文化がどのように向かっていくかを理解していかないといけない。嬉野市として将来的に文化の分野がどのようにあるべきかを示してほしい。達成していかないといけない方向確認して取り組む方向を定めていかないといけない。</p>
委員	<p>施策を進めていくことはビジョンを持って文化都市として進めていくタイプといわれたことはしないといけないタイプかと思う。議員においても文化についての質問も公にあまり聞いたことがない。検証しながらでない</p>	

		と分からないところもあると思う。文化祭、地域の埋蔵文化、市史においても現状が見えてくると思う。
内容	事業スケジュールについて	
	事務局	スケジュールは見直しをする。1期の見直しをしていかないといけない。作ることしか考えていなかったと反省している。計画を作ること自体を目的としていたが、市民との対話を通じて、単なる計画作成ではなく、共に地域のビジョンを描くことの重要性を認識した。アンケートも、現状のままでは不十分であるため、見直しが必要だと考える。
内容	会長・副会長の選出	
	事務局	次回に延期とする
		以上
その他		